



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2014年度ゼミ活動報告（学会記事）(fulltext)
Author(s)	
Citation	学芸地理(71): 124-127
Issue Date	2016-02-18
URL	http://hdl.handle.net/2309/145221
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

2014 年度ゼミ活動報告

気候学ゼミ

秋元 健作 (4年)

気候学ゼミは、毎週水曜日 18 時から地理学実験室で活動しました。ゼミのメンバーは、4 年生 5 人 (内 3 人は留学のため次年度も在籍)、3 年生 3 人、2 年生 1 人、OB1 人、中国からの留学生 1 人の計 11 人でした。

主な活動内容は、4 年生の卒業研究中間報告、論文・文献紹介、輪読、3 年生の卒業研究構想発表でした。輪読では、『大学テキスト 日本の気候』(倉嶋厚著 古今書院)を採用し、気候学の中でも、主に日本の雨や雪に関する研究を取り上げて学んできました。大学の夏季休業中には、4 年生の卒業研究で使うデータを観測する為、東京学芸大学敷地内の農園で、ゼミのメンバーが集まり、気温などの観測も行いました。

本ゼミでは、降水・風・雲などの気象要素から成り立つ、その長期的頻度や特徴から見た気候学を専門に学んでおり、また気候を包括する環境そのものを扱います。都市気候や、世界スケールの気候変動などスケールも様々です。ゼミ生は、環境教育専攻の学生が多いですが、OBや卒業生には社会科専攻の学生もいます。ゼミ生の出身地も異なることから、それぞれの出身地に関する興味・関心が高く、日本全国幅広く気候を学ぶことができます。また、留学を志す者や、留学生が在籍していることもあり、世界に関する気候を学ぶ機会が増えました。ゼミ生の幅広い興味や関心から、活発な議論が行われています。

澤田先生が、地理学と環境教育にまたがる領域を専門とされていることから、環境教育や地理学に興味をもつ学生が多く在籍しています。

ゼミ生が、それぞれ興味関心がある分野と得意とする分野を生かしながら、グローバル・ローカルスケール両方を含めた気候学の研究をゼミ全体で発展させていきます。

歴史地理ゼミ活動報告

植村 勇斗 (4年)

歴史地理ゼミは、古田悦造先生の御指導のもと、毎週水曜日午後 6 時より地理学演習室で活動しました。ゼミは地理学コースと日本研究領域の学生、研究生をあわせて 9 名でおこないました。

ゼミ時間内では、前期には『歴史で読み解く！東京の地理』をテキストとして使用し、ゼミ生で発表する章を分担して、各週に発表を行いました。それに並行して各ゼミ生が自分の卒業論文に関連するような論文を探し、選択した論文を自分なりに解釈し、パワーポイントを使用して発表・説明をする「論文紹介」を行いました。また、卒業論文中間発表の時期が近付いてきた 6 月、7 月には 4 年生による卒業論文中間発表予行演習を行いました。

後期に入ってから、前期に引き続き「論文紹介」と並行して、3 年生の卒業論文構想発表の予行演習を行いました。私自身も当時は 3 年生で古田先生からたくさんのご指導を受け、何度も何度もレジュメを書き直し、修正を加えたことでより良いものが出来上がったのではないかと思います。

平成 26 年度の歴史地理ゼミでは、日程の都合上ゼミ合宿を行うことが出来ませんでした。今年度は沖縄県渡嘉敷島にて 3 泊 4 日のゼミ合宿を行い、ゼミ生一同楽しみながらも、貴重な

学習体験をすることが出来ました。

ゼミの各発表では古田先生やゼミ生から広く鋭い指摘を受けました。誤字脱字や学会誌に乗っ取った書式が間違えているところなど、細かいところにも目を向けて指導してくださり、ゼミで何度も発表の経験を積んだことや様々な人の発表を聴くことで自分にはない知識や捉え方を習得することで、よりよい論文・発表が行えるようになったのではないかと感じます。今年度も活発なゼミ活動ができるように昨年度のよかったところを引き継ぎ、ゼミ活動を行っていきたいと思います。

文化地理ゼミ

木村 惟啓 (4年)

文化地理ゼミは、椿真智子先生のご指導のもと毎週木曜日 18 時より地理学演習室で活動してきました。昨年度は院生 3 名、4 年生 5 名、3 年生 5 名、2 年生 2 名の計 15 名での活動となり、地理学教室内でも大きいゼミとなりました。

活動内容としては、前期は院生が修士論文・副論文、4 年生が卒業論文、3 年生が臨地研究の構想発表、後期についてはそれらの中間報告を中心に行いました。文化地理ゼミは一人一人の興味のある分野が多岐に渡ることの特徴があり、毎回一つのテーマに対して様々な視点からの指摘や意見に基づく活発な議論を行うことができました。また人数の関係で一人一人の発表の機会は限られていましたが、毎回の議論をより深いものとする事でゼミ活動の意義を一人一人が見出していくことができました。

通常の活動のほかには、8 月には 3 年生の臨地研究の対象地域である高崎に赴き、院生や 4 年生から様々なアドバイスをいただきながら 10 月の本調査につながる貴重な調査を行うことができました。また 3 月には 1 泊 2 日で富山県・石川県への巡検を行いました。この巡検は

行き先やコース、宿舎なども学生が中心となって企画し、富山県では五箇山をはじめとする文化的遺産、石川県では金沢市街の景観や金沢城などを見学しました。また、巡検の日程が北陸新幹線の開通直後であったこともあり、開通直後の金沢市街や北陸新幹線の様子について、学芸地理学会で発表させていただき運びとなりました。

また、学期の終わりや年末にはゼミの親睦を深める機会も多数あり、普段は集中して議論を行う文化地理ゼミですが、そういった機会では和気藹々とした活発な会話が交わされます。

今年度は、椿先生の「アクティブな活動を目指す」という意気込みのもと、昨年よりもより活発な活動や多数の巡検が企画されております。そういった活動が個々人のより良い研究に結びつくようにゼミ生一同努力していきます。

農業農村地理ゼミ

田島 大樹 (4年)

農業農村地理ゼミ(通称アグリゼミ)は中村康子先生のご指導のもと、毎週月曜日に 18 時から院生 1 名、学部 4 年生 4 名、学部 3 年生 1 名の計 6 名、地理学標本室で活動しました。今年度も比較的少人数だったため、一つ一つの議題にゼミ生全員が積極的に議論することができ、知識を深めることができました。また、ゼミ生の興味分野がそれぞれ異なっていたことから、農業・農村にとらわれることなく、都市や観光など幅広い分野について学ぶことができました。

今年度前期は論文紹介や各論文の構想発表、中間発表を中心に活動しました。また、臨地研究を執筆する 3 年生向けに GIS ソフトウェアの使用法の講座が開かれるなど、論文の内容を高めるだけでなく、ゼミ生個人が抱える課題に対してもゼミ内で教え合うことによって高めることができました。後期についても前期と同

様、各論文の中間発表や最終発表を中心に活動し、加えて各自書き上げた論文の体裁チェック、卒論発表会のリハーサル等を行いました。

今年度はこれらの学内での活動に加え、巡検も積極的に企画しました。9月には臨地研究事前調査を行い、群馬県甘楽町で3年生の興味関心のある場所を中心に訪れました。地理学の研究が初めてである3年生に対し、4年生や院生が丁寧に指導して下さることで臨地研究本調査が実りあるものになりました。また夏季休業中には鳥取県と島根県を訪ねました。鳥取県では鳥取砂丘をはじめラッキョウ畑、梨の工場などを、島根県では出雲大社や鈿製鉄、大根島のにんじん畑・ボタン園などを巡検しました。事前に各々がテーマごとに資料を作り、それをもとに巡検に歩くというスタイルで行いました。個人的にはラッキョウ畑が一番印象的です。

来年度以降も中村先生の懇切丁寧なご指導を真摯に受け止め、ゼミ生全員で協力しより密度の濃い活動を行いたいと思います。

都市地理ゼミ

木谷 隆太郎 (4年)

2014年度は牛垣先生のご指導のもと、主に学部4年生2名、3年生3名、2年生3名の計8名で、毎週火曜日18時から理学演習室にて活動を行いました。活動内容は文献輪読を中心に、卒業論文や臨地研究の経過発表、自由発表、各地への巡検等を行いました。

なかでも特徴的なのが文献の輪読です。高橋ほか編(1997)『新しい都市地理学』東洋書林を課題図書とし、前期は川端基夫(2013)『立地ウォーズ』(新評論)を輪読しました。後期は手塚章(1991)『地理学の古典』(古今書院)を輪読し、近代地理学の父とよばれるフンボルトやリッターなどの論文から、現代につながる地理学とし

ての見方や考え方の基礎について学び、活発な議論を交わしました。

5月には新入生歓迎巡検として学生発案で北千住・山谷・浅草巡検を行い、東京に残る昔ながらの地域や歴史について学びました。8月には臨地研究の事前調査で高崎に行き、本調査に向けた準備をしました。また、2月には学生発案で高円寺から吉祥寺まで巡検し、中央線沿線の個性的な街並みとその地域ごとの違いについて理解を深めました。3月には、2014年度最後のイベントとして1泊2日の仙台・松島巡検を行いました。この巡検でも、コース設定から事前学習などを学生主体で行い、各員がそれぞれのテーマを事前調査し、現地で発表するなどして、実りある巡検になりました。

都市地理ゼミの特徴は、幅広い活動内容があることです。本ゼミでは学生主体の活動がとて活発で、ゼミ生が企画をたてながら活動内容を決めていきました。プレゼンの練習を目的とした自由発表や持ち込み企画、地域調査などがその一例です。8月には牛垣先生の神楽坂に関する研究を参考に、先生とゼミ生で神楽坂の調査を行いました。2013年度の秋葉原調査は先生主導のもとで研究としてまとめられ、日本地理学会2015年度春季大会で発表されました。

本ゼミでは牛垣先生による丁寧な御指導を真摯に受け止め、様々な活動を通して地理学に関する見識を深めていきたいです。



春合宿 青葉城址での一枚 (2015年3月24日撮影)

ヨーロッパ地域ゼミ

嶋田 真美 (4年)

ヨーロッパ地域ゼミは、加賀美雅弘先生のご指導のもと、欧米研究の学生を中心にA・B類社会科の学生や院生で活動しています。主な活動は毎週月曜日の地理学演習室でのゼミ生発表会で、昨年度は前期が自分の興味のある分野や卒論に関わる内容の発表、後期は卒論やブレ卒に向けての発表を行いました。

また、年2回程度の東京近郊の巡検を毎年実施しています。昨年度は『東京の景観を観察する』と題して、東京駅八重洲口に集合し、「地形・老舗商店街・交通・河岸・西洋建築・記念碑・江戸城・徳川家」という8つのポイントから各地を観察しました。日本橋や日本銀行、旧江戸城の本丸、国立近代美術館、閉鎖中の九段会館等を巡り、明治期に建設された銅像などの記念碑が、国民意識を高めようとする当時の政府の姿勢を良く表していることについて考えました。「意図した景観」がこの巡検のポイントの一つでした。

ヨーロッパ地域ゼミでは、以上の活動に加えて加賀美先生と学生の話し合いによりさまざまな活動が行われます。不定期に希望者を募って行われるフリートーキングや、ヨーロッパ映画の上映会、一昨年度に行われた中央ヨーロッパ巡検がその一例です。このような活動を通して、このゼミの卒業生や他大学の学生とも接触する機会が多々あるのもヨーロッパ地域ゼミの特徴です。巡検の後はもちろん、学期の節目等には積極的に親睦会が開かれるため、とても良い情報交換の場になります。

ヨーロッパ地域ゼミは、地理学の他に歴史学や民俗学等に興味のある人も多いです。地理学に限らずヨーロッパ地域がとにかく好きな人はぜひヨーロッパ地域ゼミへ！！

地形ゼミ

吉田 隆志 (4年)

地形ゼミは、本年度から開設された新しいゼミであり、青木久先生の指導のもと、毎週金曜日18時から地理学演習室で行いました。ゼミのメンバーは、院生1人と4年生2人、3年生2人と青木先生の計6名と、少人数ではありますが、毎週活発に議論を行いました。

本ゼミでは、地形を対象に研究を行っており、研究テーマは、滝の後退速度、河床縦断系と河床堆積物の関係、海鹿島海岸における砂岩の窪み深さの場所的差異、自然災害の教材化など多岐にわたりました。ゼミの時間には、青木先生からの指導のほかにも、ゼミ生間における相互のアドバイスで研究を深めることができました。

毎週の活動として、文献・論文紹介、3年生の臨地研究発表や4年生の卒業論文発表、院1年生の修士副論文、主論文の発表を行いました。この他に、巡検や調査合宿も行ないました。臨地研究の対象地である高崎や、修士論文の対象地である吉見百穴にも巡検に行きました。ゼミの調査合宿は千葉県銚子市の海鹿島海岸で行いました。合宿では、まず巡検として犬吠埼を訪れ、波の営力と地形の関係、岩質による地形の差、風化によって形成される地形などについて学んだほか、地形の調査として測量などを行ないました。

また、3月に行われた日本地理学会では、本ゼミ生によるポスター発表も行い、いろんな方からアドバイスをいただくことで、より深い知見を得ることができました。2015年度も、青木先生のもとゼミ生同士で協力し、今年度の雰囲気を保ちながらゼミ内での議論をより深めていきます。また、新しいメンバーを増やして、さらにゼミを活発にしていけたらと思っています。